

山寺ふるさと便り =第16号=

宝珠のしずく

題字 後藤仁田(性相院)

発行所 やまでら館

〒999-3301 山形市山寺517-1
TEL 023-695-2001 FAX 023-695-2164

発行者 山寺地区振興会
編集 宝珠のしずく編集委員会

山寺物語「シシ頭」新調



地区の皆様のご協力で新しくなりました。



学校文化祭子ども芸能フェスティバルでの演舞

山寺小学校

歴史劇「山寺物語」

山寺小学校には、42年間も演じ続けられてきた歴史劇「山寺物語」がある。この歴史劇は、当時、伊澤貞一先生を中心に教職員が創案したものである。

劇は、「全校児童が山寺の開山伝承・民舞を学べる」ように構成されている。そのクライマックスは、慈覚大師が一切の殺生を禁じたお札に猪が喜び踊る場面である。そのシシ頭は当初から子どもがボール紙で作ったものであった。

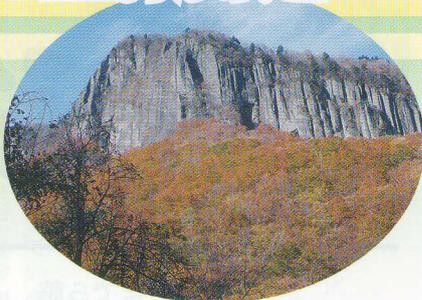
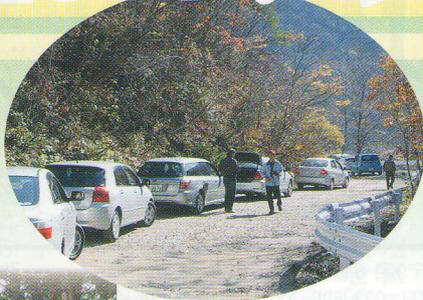
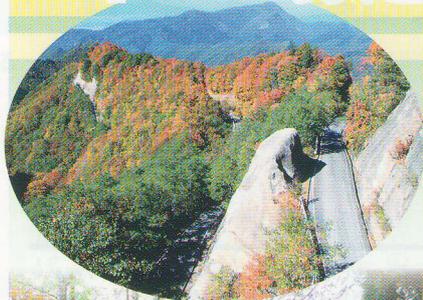
平成16年、山寺から県内各地の子ども芸能団体に呼びかけ、山寺会場で「子ども芸能フェスティバル」を開いた。長瀬「子ども猪踊り」、銅町「たたら太鼓」等や山寺中学校「警司太鼓」が参加した。

回を重ねるなかで、「山寺物語」のシシ踊りも参加させたいねとの声が上がった。しかし、ボール紙製のシシ頭ではなあ・・・。

この願いに支援の手を上げてくれたのが、山寺地区文化観光推進協議会だった。長瀬の子どもしし頭をモデルに、酒井技能技師・教職員、山寺地区猟友会(鳥の羽根提供)の協力で手作りシシ頭が見事完成した。

新しくなったシシ頭をかぶり、山寺文化祭、子ども芸能フェスティバルで、地区内外の方々に披露された。

「二口林道」しばらくぶりで全線開通



二口林道は、山形市山寺と仙台市秋保温泉を結ぶ全長19kmの林道。これまで、豪雨などの災害で、宮城県側は平成11年から、山形県側は平成19年から通行止めが続いていたが、改修工事が完成し、10月30日から8日間だけ通行可能になった。初日から多くの車が行き交い、期間中の通行車両は1万台余り。

山寺観光協会によれば、東日本大震災のため観光客数は例年の70%と落ち込んだが、二口林道の開通により例年とほぼ同じ数までに回復した。また開通により、山形と宮城とよりいっそうの交流が期待されている。しかし、二口林道に通じる馬形地区の道は狭いため大渋滞になって日常生活に影響するほどであった。



できるかなあ? けずって、ひねって、食べて、まわして!!



イタドリを使った笛作り



教育文化フォーラム 小林彰さん

うまく吹くには
コツがあるなあー

作っては食べ
作っては食べ

クズの茎の部分を使ったカメさん作り



作ったあとかじの木
クラブとたかせっ子の
みんなでカメと遊んだ

サイダーとアイス
キャンディー作り



サイエンスナビゲーター
庄内エコプランニング 齋藤安和さん

教育文化フォーラム
板垣歳光さん

バルーン
アート作り



かわいい犬が
できるかなあー

バルーンアート講師
遠藤和男さん

“わくわくワークショップ”が子ども達を対象にやまでら館主催事業として展開。ベテラン先生の指導のもと、子ども達は興味津々、目を輝かせながら取り組んでいた。

(場所: やまでら館)

正統派コマとブンパンコマ作り



ぶんぶん回せる
ようになると
やみつきの面白さ

芸工大サークル
チャイルドアートのみなさん

東日本大震災 (23年 3月11日)

東北太平洋沿岸を襲った大地震・大津波は、多くの命を奪い、町を破壊し、日本全土を驚愕させた。続いての福島原発事故は、放射能の影響で、いつ自宅に帰れるかわからない生活を余儀なくされている。

日本のみならず世界からも温かい支援が寄せられ、復興のさざしが見え始めた。山寺の多くの方々も被災地を訪れ、手助けしている。



被災直後の石巻市と東松島市

(写真：丸山巖さん・遠藤正明さん)

沢山のさくらんぼを持って

大川小児童の慰霊碑 (70名死亡、4名不明)

チーム山形のみなさんと炊き出しへ

平和の祈り 山寺から

山寺祈りの芸術祭

山寺は、祈りの場として開山した場所。東日本大震災や原発事故などでメチャメチャになった今こそ、「ここから世界に祈りを送りたい」と。山寺地区文化観光推進協議会が中心となり、フオークシンガルの小室等さん指導のもと8月20日から9月4日まで開催。主なイベントとして

- ☆山寺ホテルを会場に美術作品展示
- ☆根本中堂前でライブと舞踏 (あがた森魚・森繁哉)
- ☆立石寺本坊でトークと音楽 (永六輔・小室等・千歳栄・清原浄田)
- ☆面白山高原ロッジでライブ (南佳孝・山寺宏一・小柴大造他)

期間中、山形に避難されている被災者のみなさんをご招待。「気持ち癒されました」「音楽に心躍る思いがしました」と感動の声がかかった。

立石寺本坊には県内外からたくさんの方々(8/22)

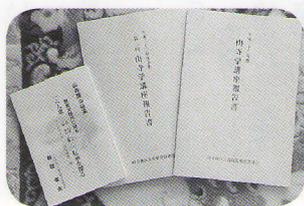


※芸術祭の際は、避難があったこの際「祈り」を山寺からこの願いで使用した。

山寺ホテル前にて開会式(8/20)

山寺を語る出版

平成23年に、山寺の自然・歴史・文化の魅力を新たな視点から見つめ直そうという書籍が出版された。



一つは、山寺地区文化観光推進協議会が主催した「山寺学講座」の報告集。(22年、23年分)

もう一つは、山寺開山伝承の一つである慈覚大師円仁隨身「六人衆伝承を探る」(新関孝夫著)。

いずれも、今後、山寺の魅力を語り継いでいくのに好資料である。

平成23年度 山寺振興会活動

各町内会役員改選に伴い、振興会役員が下段の様に新任。

山寺振興会は、地区民・各種団体の皆さんと手を組み、「子どもから高齢者まで明るく住みよい山寺をつくる」次の活動に取り組んだ。

- *レクリエーションや文化祭
- *各町内会毎の「高齢者と語る集い」、「生き生きサロン」
- *土木工事などの生活環境整備箇所点検、陳情4。

ボランティア 歩道除雪に感謝状

山寺振興会が平成16年度に提唱し、実施してきたボランティア活動「歩道除雪」が評価され、23年度「県土づくり」感謝状が授与された。

この山寺をモデルにした「歩道除雪」ボランティア活動が全県に広がっている。



吉村知事より石川振興会長へ

中地蔵から南院までの「歩道除雪」活動に参加なされている皆さん、ありがとうございます。

平成23年度～24年度 山寺地区振興会役員構成

会長	石川 進一 (中地蔵)
副会長	水野 徹 (川原町)
副会長	後藤 勝正 (千手院)
執行役員	布施 勇治 (地蔵堂)
	矢萩 清和 (地蔵堂)
	柏倉 一弥 (宮崎)
	佐藤 恒也 (芦沢)
	滝口 君雄 (芦沢)
	伊藤 英夫 (南院)
	岩田 義廣 (馬形)
	武田 義英 (所部)
	後藤 武平 (千手院)

我今幸いに

立石寺住職 清原正田

「我今幸いに、仏祖の加護と衆生の恩恵によって、この清き食を受く。つつしんでその来由をたずねて味の濃淡を問わず、その功德を念じて品の多少を選ばず。いただきます。」

これは、修行中に食事をする時となえる言葉です。

食べ物となつてくれた植物や動物、料理してくれた人に感謝して食事をしましょう。

☆立石寺の清原浄田氏、55年間に住職をおつめいただきありがとうございました。

根本中堂でとんと昔話

昨年のライトアップの時から根本中堂で元かんばん娘が昔話を語った。(ライトアップ期間中夏3回・秋3回)

厳かな薄明かりのお堂の中、新人語り部7人が、春から練習してきたとんと昔話を山寺ズーゾー弁で披露。笑いあり、涙ありの話に県外から来

られたお客様は、身を乗り出して聞き入り拍手喝采。

今後の山寺の観光に一役を担うことでしょう。



※題目は「警一郎と慈覚大師」「まぼこの一文銭」「親孝行娘」「姥捨て山」他。

受賞・表彰

(敬称略)

- 山形市花壇コンクール最優秀賞
- 山形地区振興会(追分花壇)
- 山形県土づくり感謝状
- 山形警察署長感謝状
- 山形地区振興会
- 山寺駐在所地域防犯連絡会
- 笹原いくみ(川原町)
- 山形市社会福祉協議会感謝状
- 山寺小中児童会生徒会
- 小さな親切運動実行章
- 山寺小中児童会生徒会
- 山形防犯協会・山形警察署長功労賞表彰
- 武田久之進(所部)
- 山形県防犯協会・山形県警察本部長功労者表彰
- 遠藤正悦(南院)
- 布施一(宮崎)
- 山形市技能功労者褒章
- 遠藤和雄(川原町)
- 山形県少年補導員連合会表彰
- 布施義則(宮崎)
- 山形地区交通安全協会表彰
- 優良支部 山寺支部
- 交通功労者 後藤勝彦(馬形)
- 優良役員 布施秀雄(地藏堂)
- 自治推進委員退任感謝状
- 長井了(中地藏・布施清喜(地藏堂)
- 布施一(宮崎)・佐藤恒也(芹沢)
- 武田忠男(南院)・後藤勝彦(馬形)
- 増子健一(所部)・後藤勝正(千手院)

ミニ情報 耳よりな話

- ◎「山寺再発見」セミナーが志村直愛氏(警上院)と佐藤庄一氏(警上院)を講師に開催。地区内外の方約170人が参加。峯の浦遺跡や記念館の価値について学び貴重な時間を共有。
- ◎山寺学講座で宗教学者山折哲雄氏が「日本人と災害(祈り)」と題して講演。参加者は傾きながら聞き入った。
- ◎宝珠山の景観保全に立石寺が昨年から三カ年で松苗3千本の植樹に着手。この植樹に山形ライオンズクラブが松苗を提供した。

- ◎子育てはお手伝いが基本。山寺小中PTAはリサ・ソマーズ氏(警上院)を講師に招き「アメリカの子育てとお手伝い」のテーマで研修会を行った。参加したお父さんは自立のしつけはお手伝いから始めることが大切なんだなあ。」と。
- ◎今年も防犯標語「地区の絆を深める」を募集。最優秀作品
- 一般の部 遠藤光雄氏(南院)
- 緊急時 強い絆が命綱
- 小学生の部 山田美結さん(中地藏)
- 声かけあい地域で築く防犯の輪
- 中学生の部 武田優弥さん(千手院)
- あいさつでひろがる絆 地域が目

全国大会出場(敬称略)

- ・全国中学校体育大会(和歌山県)
- 柔道 山寺中三年 富樫まや(中地藏)
- 優秀指定選手(山形県体育協会)
- ・第六十六回国民体育大会卓球競技少年女子
- 山形西高二年 遠藤幸奈(南院)

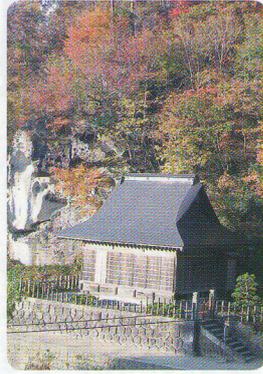
平成二十三年の物故者

謹んでお悔やみ

申し上げます

- 〈千手院〉
- ・後藤さみの殿
- ・中川ミン殿
- ・武田義太郎殿
- 〈所部〉
- ・増子 和男殿
- 〈馬形〉
- ・後藤 三男殿
- ・後藤 牧子殿
- 〈南院〉
- ・高木 世起殿
- 〈川原町〉
- ・伊藤 良平殿
- 〈芹沢〉
- ・堀川チヨノ殿
- ・奥山 京子殿
- 〈宮崎〉
- ・柏倉 テル殿
- ・布施さくの殿
- 〈地藏堂〉
- ・矢萩 正吉殿
- 〈中地藏〉
- ・帯刀喜一郎殿
- ・村形まさ子殿
- ・後藤 京松殿
- ・富樫 さき殿
- ・増子 マサ殿
- ・後藤みさを殿
- ・小笠原やえ殿
- ・小野 睦子殿
- ・滝口 喜一殿
- ・滝口 真一殿
- ・丹野 伸作殿
- ・柏倉 弥作殿
- ・矢萩 清子殿

山寺の文化財 東宮行啓記念殿



現在の記念殿

宝珠山立石寺境内には堂塔伽藍が大小50余もある。その中に、明治天皇の東宮（皇太子殿下）行啓記念殿が山頂売店向かいに建っている。明治41年9月18日、東宮嘉仁親王（後の大正天皇）が山寺に行啓あそばされた砌、御休所として、県知事はじめ、行啓招致関係者の熱意で建設されたものである。平成23年2月、記念殿についての講演会を開催（やまでら館で）、講

建設当時の記念殿



「芭蕉記念館」広場から望む

師志村直愛山形芸工大准教授は、「竣工100年以上を経た重要文化財級の歴史的建築物である。」と指摘し、その根拠を次のようお話しなされた。
 ☆当時、山寺中が湧いた行啓の歴史を直接伝える貴重な文化財である。
 ☆境内では、その目的から最も眺望に優れた場所に建てられた建築である。
 ☆地元の先人達が、後世に伝え守っていきたくという想いの強い建築である。
 ☆地元の木材、石材などが用いられ、当時の山寺の産業態様を伝えている。
 ☆東村山郡一帯の市民、職人たちの思いと技術に支えられた建築である。
 ☆山形市内に残る皇室関係建築物の中で、当時のままの形で残るもの

として重要である。
 ☆御休所は、御所を手本とした格式高い建築の特徴をよく示している。
 ☆棟札も残り、竣工年代や建築に携わった人々が特定できる。
 ☆当時の材料、技術、意匠などがオリジナル状態で残されている。
 ☆東宮が滞在した当時のままの内部の様子が残され、再現が可能である。
 この度二市二町（山形市、天童市、中山町、山辺町）が修復し、その後維持管理の主体は立石寺が担い、山寺の関係諸団体が協力し、山寺の振興に繋げていくことになった。

山寺の遺産

峯の浦出土

念持仏如来座像

仏像は铸造されたもので、一部に金箔の痕が見られる。像の高さは約6.1cm、重さ90gで、台座に載せてある。この仏像は、現在山形市青柳に住まいの富樫信一さんが所蔵されている。家伝によると、江戸時代の中頃、ご先祖（富樫家は字本院から、明治20年代頃に現青柳に転居）が峯の浦本院阿弥陀屋敷の畑地を耕作中、偶然見つけたものだという。今現在、仏壇に祀り、毎日お参りしておられる。富樫さんは、峯の浦本院地区「阿弥陀屋敷」が発掘調査されているこ



とを聞き、発掘調査研究の役に立てばとこの仏像を公開してくださった。平成23年3月11日、発掘調査員の川崎、佐藤、新関の三人がお宅に伺い見せて頂いた。さっそく、仏像の写真を仏教考古学専門家狭川真一氏（財団・奈良・元興寺文化財研究所 研究部長）に送り見て頂いた。「如来像としては合掌の姿は珍しい。顎をひいた像なので、時代はやや幅をもつが、鎌倉以降室町時代頃のものであろう。首の後ろの突起に光背を取り付け、小さな厨子等に入れた念持仏如来座像ではないか。」という感想が届いた。
 この仏像が、発掘調査中の礎石・遺物等とどう関連するのか、今後の調査への期待が大きく高まってきている。

生涯山寺

「山寺の誇りとして残していきたいもの二つ、①小学校全児童参加の山寺物語 ②16年目になる地区ニュース宝珠のしずく。どちらも地区民による手作りの財産である。」こんなことを穏やかな口調で、しかし熱っぽく話を続けられた。

小学校の先生を退職してから、祖父不忍さんの遺志を継いで遺稿を編集し、「山寺百話」を出版。次いで続編もまとめられた。

平成五年から十一年半、公民館長の職にありその間、写真集「山寺の歴史」を編集、宝珠のしずくはこの期間に始められた。

郷土にかけがえのない原点は「生涯山寺人」。山寺の人は郷土山寺に恩返しをと呼びかける。この言葉は性相院後藤讓田和尚の遺訓を額にしたもの。やまでら館に掲げてある。

山寺に夢を架ける



話題の人
伊澤貞一さん(音沢)
昭和六年三月四日生



成山 敏郎
キエ子夫妻(音沢)



武田 進
クニ子夫妻(所部)



相田 亮順
絹子夫妻(川原町)

おめでとう 金婚さん



遠藤 正悦
えい子夫妻(南院)



堀川 邦夫
良子夫妻(音沢)



高齡者教室
主催 北部公民館ブロック

平成23年2月17日、やまでら館で、劇団「あかひげ」代表朝烏奉公氏の弾き語り一人芝居「かあさんの唄」が演じられた。終戦間近の隔年2月下旬、北海道奥尻島で起こった事件の中で母の姿を語り、「命の重さと尊さ」を訴える感動の独演だった。

かあさんの唄



お誕生 おめでとう
平成二十三年生まれ

(馬形)
・後藤和也氏次女 蘭奈さん

(千手院)
・後藤雄一氏長女 璃子さん

(川原町)
・後藤隆田氏長男 康佑さん

編集後記

昨年3月11日の大震災・原発事故で、ボランティアや「絆」の重要性が高まっています。

「しずく」を山寺の絆・家庭の絆を強める一助として、また山寺の情報を地区外にも届けていただければ幸いです。

今号からカラーページを増やし、一方、内容を厳選し、8Pから6Pに変更しました。

ぜひ、ご意見をお寄せ下さい。

編集委員

遠藤 正悦 新関 孝夫
布施 晶嗣 笹原 永吉
後藤 久 岩田 義廣
遠藤まき子

◆ありがとうございました◆

「宝珠のしずく」は平成9年に創刊、今年で16号となります。

最初から編集に携わった伊澤貞一さん、後藤哲夫さん、武田誠さんは後輩にバトンタッチしました。本当にお世話になりました。

中地蔵の交差点 事故防止の為 黄色に変身!!

